

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------|----|-------------|
| ○事業所名 | あみぶらす3 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年1月24日 | | ～ 令和8年2月22日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 18 | (回答者数) 14 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年1月20日 | | ～ 令和8年2月22日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 10 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月26日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 適切な支援の提供 | サービスの中心は児童に対する支援だと考えている。 児童一人ひとりの特性を理解し、個別支援の作成や日々の支援内容を考えるよう意識している。 | 契約児童の半数近くが小学校卒業を控えているが、大変ありがたいことに事業所を卒業する児童は一人もいない。 年齢が上がってきたことで思春期などの今までになかった難しい問題が出てくる。中学生向けの視点、支援内容など研修などを通じて指導員のレベルアップを図る。 |
| 2 | 満足度 | 「楽しみながら学ぶ」「自然に身に着く」ことを意識した支援プログラムを用意し、児童にとって楽しい場所であることを目指している。 | 上記同様、児童の年齢が上がってきたことで興味が移り変わってきている。 児童の興味を理解し楽しく取り組めることに加え、中学生ならではの悩みの相談にも応えられる安心できる場所であることを目指す。 |
| 3 | 環境 | 支援室の広さについて好評をいただいている。 複数的小グループで同時に活動を行ったり、真夏や天気が悪い時には室内で軽運動も行えるようになっている。 | 広さの一方で、個室がないためクールダウンなどが必要な場合に対応できるスペースがない。 また建物の構造上、「建物玄関と支援室まで距離があるため侵入者に気付けない」と言った心配の声も上がっている。対策を検討したい。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | ペアレントトレーニングや父母会の開催 | 支援の様子を見ていただきたい気持ちはあるものの、保護者様が来られた時に児童たちが浮足立ってしまう様子が想像できづらい。 また実際に開催するとなると、当然ながら準備が必要となるが、業務過多で新たな挑戦を行う余力がない。 | まずは業務改善を図り、適切な開催方法を検討していきたい。 |
| 2 | 地域の他の子どもとの交流 | 児童館への訪館、公園遊びなど機会は提供しているが、一部の子は時折交流を持つことができるものの、ほとんどの場合は交流まで至らない。 一人遊び中心、人見知りの児童などの特性を持つ子が多く、そもそも他者との交流が難しい子が多い。 | 自然な関りの発生は難しいため、児童クラブへの訪問など、強制的に関りを持つ場面を作る必要があるのかもしれない。 ただ、利用者である児童たちがそれを望んでいない場合、虐待に抵触する恐れもあり、実施に慎重になっている。 |
| 3 | マニュアル類の整備 | マニュアルが大量にあり、更新が追いつかない。 更新できていないため周知もできず、訓練も形式的になっている。 | 最新の内容に更新できるよう、他の業務の効率化を図り時間を捻出する必要がある。 |